

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	大島商船高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部等 共通 科目	専門 科目	合計		
	商船学科・航海コース		0	0	13	13	7	
	商船学科・機関コース				7	7	7	
	電子機械工学科				9	9	7	
	情報工学科				11	11	7	
	海洋交通システム学専攻			2	8	10	7	
	電子・情報システム工学専攻				10	12	7	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicDepartments?school_id=37
 学科・専攻ごとの「本年度の開講科目一覧」に、実務経験のある教員による授業科目一覧が表示されている。

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	大島商船高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2024/06/yakuin.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence#link01)
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	熊本大学長	2016年4月 1日～2026 年3月31日	理事長
常勤	九州大学大学院総合理 工学府長・研究院長	2024年4月 1日～2026 年3月31日	国際交流・海外展開 情報システム
非常勤	東京大学教授	2022年4月 1日～2026 年3月31日	男女共同参画
(備考)			

様式第 2 号の 3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	大島商船高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) シラバス作成を前年度 12 月から授業担当教員に依頼し、1 月末をめどに提出させている。提出されたシラバスは、教務委員会で確認の上、Web シラバスで公開している。学生には、ホームページ上でシラバスを確認させるとともに、1 回目の授業時に該当科目のシラバス印刷物を配布することによって、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価等について周知している。	
授業計画書の公表方法	https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicDepartments?school_id=37
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 「大島商船高等専門学校学業成績の評価並びに進級及び卒業の認定に関する規則」及び「大島商船高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規則」に則り、授業計画(シラバス)にてあらかじめ周知されている評価割合に基づき、厳格かつ適正に単位授与または履修認定を実施している。定期試験については、すべての答案を PDF 化して保管している。実験実習等のレポートは、学生が卒業するまで担当教員が保管している。また、卒業研究は、JABEE 準拠のルーブリックを用いて評価している。	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。 (客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 前期末及び学年末成績について成績会議で認定された評点により、個人の評点の平均を小数点以下第2位までを算出し、平均点の大きい者を上位とし、順位付けを行っている。上記にて設定した算出方法により、成績分布状況を把握している。	
客観的な指標の算出方法の公表方法	https://www.oshima-k.ac.jp/wp-content/uploads/2023/08/seisekihyouka.pdf
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。 (卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 「大島商船高等専門学校学業成績の評価並びに進級及び卒業に関する規則」により、卒業認定会議を開催の上、校長が卒業・修了を認定している。 (1) 学則に定める各学年の必修科目及び修得最低単位数に相応する選択科目を履修すること。 (2) 修得累計単位数が167単位以上（そのうち、一般科目75単位以上、専門科目82単位以上）であること。ただし、商船学科については、修得累計単位数が147単位以上（そのうち、一般科目75単位以上、専門科目62単位以上）であること。 (3) 卒業研究を修得していること。 (4) 商船学科については、大型練習船実習課程を修了していること。 (5) 大型練習船実習課程のうち卒業年次の6月については、疾病等やむを得ない事由により履修が困難であると校長が認める場合は、その全部又は一部について、校長が別に定める措置とすることができる。 (専攻科) 学則及び「大島商船高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規則」により、修了を認定している。	
卒業の認定に関する方針の公表方法	https://www.oshima-k.ac.jp/kyouiku/

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	大島商船高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/zaimusyohyoR5.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)
収支計算書又は損益計算書	ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/zaimusyohyoR5.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)
財産目録	
事業報告書	ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/R5jigyohoukoku.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)
監事による監査報告(書)	ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/R5jikotennkennhyouka.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:独立行政法人国立高等専門学校機構の年度計画 対象年度:令和7年度)
公表方法: https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2025/03/r7-keikaku.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)
中長期計画(名称:独立行政法人国立高等専門学校機構の中期計画 対象年度:令和6年度から令和10年度)
公表方法: https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2025/03/5th-keikaku.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.oshima-k.ac.jp/open/

(2) 認証評価の結果 (任意記載事項)

公表方法：

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

① 教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 商船学科
教育研究上の目的 (公表方法： https://www.oshima-k.ac.jp/kyouiku/#anker-02)
(概要) 1 豊かな教養と国際感覚を身につけた、視野の広い技術者を養成する。 2 協同の精神と責任感を培い、集中力・耐久力を養い、指導者として必要な能力を育成する。 3 探究心を養い、身体を鍛え、先人の遺産を学び、新技術を創造できる能力を育成する。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法： https://www.oshima-k.ac.jp/kyouiku/#anker-03)
(概要) 本校に在籍し各学科教育目標に基づく以下の能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定する。 (商船学科) 1. リベラルアーツ、国際的素養及び生涯にわたって自ら学ぶ力 (1) 人文・社会科学の知識・理論を駆使し、国際社会のニーズに対応できる。 2. 実践的技術者に必要な科学的基礎知識 (1) 技術者として必要な数学・自然科学の基礎的知識を専門分野に活用できる。 (2) 情報リテラシー、基礎的な情報処理技術の知識を習得し、各種データの解析ができる。 3. 商船学的専門基盤知識 (1) 専門分野の基礎を学び、実験結果や簡単な自然現象、工学現象及び社会事象を解析できる。 (2) 船舶運航及び管理に必要とされる専門技術と知識を持つ。 4. 社会実装に応用・実践できる力 (1) 豊かな教養と倫理観、責任感を有し、福祉向上や環境保全など持続的発展を目指す社会に貢献できる。 5. 自分の意見を論理的に表現でき、周囲と協調しあうコミュニケーション力と人間力 (1) 技術者としての主体性、コミュニケーション能力、指導力を発揮し、課題を解決できる。 (2) 海技従事者及び海事従事者として、課題を発見し解決できる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法： https://www.oshima-k.ac.jp/kyouiku/#anker-04)
(概要) 本校では、ディプロマポリシーにて掲げた能力を身につけるため、次のような編成方針に基づいた教育を実施する。 (商船学科) 商船学科では、ディプロマポリシーにて掲げた能力を身につけるために、以下の科目群を開設する。 1. リベラルアーツ、国際的素養を身につけられるように (1) 低学年次に幅広い教養を身につけるために人文社会系科目を設け、講義を主とした学

修方法により展開する。 (2) 低学年次にライフ／アースサイエンス、環境問題などのリベラルアーツ及び汎用的能力に関する科目を設け、講義を主とした学修方法により展開する。併せて、これら科目では普遍的に有用性をもつ能力や分野横断的能力を涵養する。 (3) 低・高学年次に外国語（英語）科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。 2. 実践的技術者に必要な科学的基礎知識を修得できるように (1) 低学年次に化学や物理、数学などの自然科学系科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。 (2) 低学年次に情報リテラシーに関する基礎情報系科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。 3. 商船学的専門基盤知識を修得できるように (1) 低学年次に商船学に関する専門基礎科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。 (2) 低・高学年次に航海系及び機関係の科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。 4. 社会実装に応用できる能力を身につけられるように (1) 船舶運航に必要な専門知識と技術修得のための商船系専門科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。 (2) 航海系に関する科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。 (3) 機関係に関する科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。 (4) 全学年を通して校内練習船実習及び実験・実習科目群を展開する。 5. 論理的説明力、周囲との協調性及び自ら学ぶ力を身につけられるように (1) 全学年を通して校内練習船実習を展開する。 (2) 卒業研究を設け、新規課題への取り組み、自主的な学習・研究能力、問題解決能力及びプレゼンテーション能力を育成する観点から、学生と指導教員の双方向性を重視した総合的な学修を展開する。 （成績評価方法の方針） 本校では、授業科目の成績評価は各科目の到達度を設定し以下の方法で行う。 (1) 講義科目は、定期試験の成績、小テスト、レポート等の提出物、履修状況などを総合して実施する。 (2) 実験実習、演習等の科目では、定期試験を実施せず、履修状況や提出物等により評価することがある。 （単位認定基準） 教育課程を編成する各科目の学修の成果は、履修状況と定期試験やレポートなどシラバスに記載された評価方法に沿って総合的に評価する。成績は 100 点法によるものとし、60 点以上を合格とし所定の単位を認定する。
入学者の受入れに関する方針 （公表方法：https://www.oshima-k.ac.jp/exam/honka/#anker-02） （概要） アドミッションポリシー（求める学生像） 1. 高専入学後の学習に対応できる基礎学力を身につけている人 2. 学校生活に必要な協調性、責任感、コミュニケーション能力を身につけている人 3. 社会や集団のルールを守ることができる人 4. 海事分野または工業分野に関する専門知識と技術の習得に意欲のある人 5. 専門知識と技術を身につけ、新しい技術の創造に挑戦する意欲のある人

学部等名 電子機械工学科
教育研究上の目的（公表方法： https://www.oshima-k.ac.jp/kyouiku/#anker-02 ）

(概要) 1 豊かな教養と国際感覚を身につけた、視野の広い技術者を養成する 2 協同の精神と責任感を培い、集中力・耐久力を養い、指導者として必要な能力を育成する 3 探究心を養い、身体を鍛え、先人の遺産を学び、新技術を創造できる能力を育成する
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.oshima-k.ac.jp/kyouiku/#anker-03)
(概要) 本校に在籍し各学科教育目標に基づく以下の能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定する。 (電子機械工学科) 1. リベラルアーツ、国際的素養及び生涯にわたって自ら学ぶ力 (1) 人文・社会科学の知識・理論を駆使し、国際社会のニーズに対応できる。 2. 実践的技術者に必要な科学的基礎知識 (1) 技術者として必要な数学・自然科学の基礎的知識を専門分野に活用できる。 (2) 情報リテラシー、基礎的な情報処理技術の知識を習得し、各種データの解析ができる。 3. 工学的専門基盤知識 (1) 専門分野の基礎を学び、実験結果や簡単な自然現象、工学現象及び社会事象を解析できる。 (2) 電気電子工学、機械工学に関する専門知識を有し、問題を解決できる。 (3) コンピュータ・情報に関する知識を有し、コンピュータを活用できる。 4. 社会実装に応用・実践できる力 (1) 豊かな教養と倫理観、責任感を有し、福祉向上や環境保全など持続的発展を目指す社会に貢献できる。 5. 自分の意見を論理的に表現でき、周囲と協調しあうコミュニケーション力と人間力 (1) 技術者としての主体性、コミュニケーション能力、指導力を発揮し、課題を解決できる。 (2) 報告書や論文など論理的文章の作成及び学術的プレゼンテーションができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.oshima-k.ac.jp/kyouiku/#anker-04)
(概要) 本校では、ディプロマポリシーにて掲げた能力を身につけるため、次のような編成方針に基づいた教育を実施する。 (電子機械工学科) 電子機械工学科では、ディプロマポリシーにて掲げた能力を身につけるために、以下の科目群を開設する。 1. リベラルアーツ、国際的素養を身につけられるように (1) 低学年次に幅広い教養を身につけるために人文社会系科目を設け、講義を主とした学修方法により展開する。 (2) 低学年次にライフ／アースサイエンス、環境問題などのリベラルアーツ及び汎用的能力に関する科目を設け、講義を主とした学修方法により展開する。併せて、これら科目では普遍的に有用性をもつ能力や分野横断的能力を涵養する。 (3) 低・高学年次に外国語（英語）科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。 2. 実践的技術者に必要な科学的基礎知識を修得できるように (1) 低学年次に化学や物理、数学などの自然科学系科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。 (2) 低学年次に情報リテラシーに関する基礎情報系科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。 3. 工学的専門基盤知識を修得できるように

(1) 低・高学年次に専門基礎科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。 (2) 低・高学年次に電気電子工学系、機械工学系の科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。 4. 社会実装に応用できる能力を身につけられるように (1) 低・高学年次に電気電子工学に関する科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。 (2) 低・高学年次に機械工学に関する科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。 (3) 全学年を通して電気電子工学、機械工学に関する実験・実習科目群を編成する。 5. 論理的説明力、周囲との協調性及び自ら学ぶ力を身につけられるように (1) 低・高学年次にかけて、プロジェクトベースの科目を設け、これをグループ学修により展開する。 (2) 高学年次に卒業研究を設け、新規課題への取り組み、自主的な学修・研究能力、問題解決能力及びプレゼンテーション能力を育成する観点から、学生と指導教員の双方向性を重視した総合的な学修を展開する。 (成績評価方法の方針) 本校では、授業科目の成績評価は各科目の到達度を設定し以下の方法で行う。 (1) 講義科目は、定期試験の成績、小テスト、レポート等の提出物、履修状況などを総合して実施する。 (2) 実験実習、演習等の科目では、定期試験を実施せず、履修状況や提出物等により評価することがある。 (単位認定基準) 教育課程を編成する各科目の学修の成果は、履修状況と定期試験やレポートなどシラバスに記載された評価方法に沿って総合的に評価する。成績は 100 点法によるものとし、60 点以上を合格とし所定の単位を認定する。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.oshima-k.ac.jp/exam/honka/#anker-02)
(概要) アドミッションポリシー(求める学生像) 1. 高専入学後の学習に対応できる基礎学力を身につけている人 2. 学校生活に必要な協調性、責任感、コミュニケーション能力を身につけている人 3. 社会や集団のルールを守ることができる人 4. 海事分野または工業分野に関する専門知識と技術の習得に意欲のある人 5. 専門知識と技術を身につけ、新しい技術の創造に挑戦する意欲のある人
学部等名 情報工学科
教育研究上の目的 (公表方法：https://www.oshima-k.ac.jp/kyouiku/#anker-02)
(概要) 1 豊かな教養と国際感覚を身につけた、視野の広い技術者を養成する 2 協同の精神と責任感を培い、集中力・耐久力を養い、指導者として必要な能力を育成する 3 探究心を養い、身体を鍛え、先人の遺産を学び、新技術を創造できる能力を育成する
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.oshima-k.ac.jp/kyouiku/#anker-03)
(概要) 本校に在籍し各学科教育目標に基づく以下の能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定する。 (情報工学科) 1. リベラルアーツ、国際的素養及び生涯にわたって自ら学ぶ力 (1) 人文・社会科学の知識・理論を駆使し、国際社会のニーズに対応できる。 2. 実践的技術者に必要な科学的基礎知識

(1) 技術者として必要な数学・自然科学の基礎的知識を専門分野に活用できる。 (2) 情報リテラシー、基礎的な情報処理技術の知識を習得し、各種データの解析ができる。 3. 工学的専門基盤知識 (1) 専門分野の基礎を学び、実験結果や簡単な自然現象、工学現象及び社会事象を解析できる。 (2) 情報工学の専門知識を活用し広い視野で工学分野の課題を解決できる。 4. 社会実装に応用・実践できる力 (1) 豊かな教養と倫理観、責任感を有し、福祉向上や環境保全など持続的発展を目指す社会に貢献できる。 (2) 情報工学の実験・演習や研究活動を通じて自ら学び柔軟で創造的に情報システムをデザインできる。 5. 自分の意見を論理的に表現でき、周囲と協調しあうコミュニケーション力と人間力 (1) 技術者としての主体性、コミュニケーション能力、指導力を発揮し、課題を解決できる。 (2) 自らの考えを明確な言葉で表現するプレゼンテーションができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.oshima-k.ac.jp/kyouiku/#anker-04)
(概要) 本校では、ディプロマポリシーにて掲げた能力を身につけるため、次のような編成方針に基づいた教育を実施する。 (情報工学科) 情報工学科では、ディプロマポリシーにて掲げた能力を身につけるために、以下の科目群を開設する。 1. リベラルアーツ、国際的素養を身につけられるように (1) 低学年次に幅広い教養を身につけるために人文社会系科目を設け、講義を主とした学修方法により展開する。 (2) 低学年次にライフ／アースサイエンス、環境問題などのリベラルアーツ及び汎用的能力に関する科目を設け、講義を主とした学修方法により展開する。併せて、これら科目では普遍的に有用性をもつ能力や分野横断的能力を涵養する。 (3) 低・高学年次に外国語（英語）科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。 2. 実践的技術者に必要な科学的基礎知識を修得できるように (1) 低学年次に化学や物理、数学などの自然科学系科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。 (2) 低学年次に情報リテラシーに関する基礎情報系科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。 3. 工学的専門基盤知識を修得できるように (1) 低・高学年次に専門基礎科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。 (2) 低・高学年次に情報工学系の科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。 4. 社会実装に応用できる能力を身につけられるように (1) 低・高学年次にソフトウェア系に関する科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。 (2) 低・高学年次にコンピュータシステム系に関する科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。 (3) 低・高学年次に情報通信ネットワーク系に関する科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。 (4) 低・高学年次に情報数学・情報知識を身につけるために機械系、電気・電子系、経済ビジネス系専門科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。 5. 論理的説明力、周囲との協調性及び自ら学ぶ力を身につけられるように (1) 低・高学年次にかけて、プロジェクトベースの科目を設け、これをグループ学修によ

り展開する。 (2) 高学年次に卒業研究を設け、新規課題への取り組み、自主的な学修・研究能力、問題解決能力及びプレゼンテーション能力を育成する観点から、学生と指導教員の双方向性を重視した総合的な学修を展開する。 (成績評価方法の方針) 本校では、授業科目の成績評価は各科目の到達度を設定し以下の方法で行う。 (1) 講義科目は、定期試験の成績、小テスト、レポート等の提出物、履修状況などを総合して実施する。 (2) 実験実習、演習等の科目では、定期試験を実施せず、履修状況や提出物等により評価することがある。 (単位認定基準) 教育課程を編成する各科目の学修の成果は、履修状況と定期試験やレポートなどシラバスに記載された評価方法に沿って総合的に評価する。成績は 100 点法によるものとし、60 点以上を合格とし所定の単位を認定する。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.oshima-k.ac.jp/exam/honka/#anker-02)
(概要) アドミッションポリシー(求める学生像) 1. 高専入学後の学習に対応できる基礎学力を身につけている人 2. 学校生活に必要な協調性、責任感、コミュニケーション能力を身につけている人 3. 社会や集団のルールを守ることができる人 4. 海事分野または工業分野に関する専門知識と技術の習得に意欲のある人 5. 専門知識と技術を身につけ、新しい技術の創造に挑戦する意欲のある人

学部等名 海洋交通システム学専攻
教育研究上の目的 (公表方法：https://www.oshima-k.ac.jp/kyouiku/#anker-02)
(概要) 1 豊かな教養と国際感覚を身につけた、視野の広い技術者を養成する 2 協同の精神と責任感を培い、集中力・耐久力を養い、指導者として必要な能力を育成する 3 探究心を養い、身体を鍛え、先人の遺産を学び、新技術を創造できる能力を育成する
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.oshima-k.ac.jp/kyouiku/#anker-03)
(概要) 本校専攻科では、教育上の目的(学則第 31 条の 2)に掲げる人材育成のために次のような具体的な能力と素養を定め、これらを身に付けかつ所定の単位を修得した学生に修了を認定する。 (海洋交通システム学専攻) 1 国際的な視野と倫理観に基づく価値判断ができる海洋交通システム技術者 (1) 文化や歴史を踏まえ国際社会で生じる様々な現象について総合的に把握することができる。 (2) 社会、福祉や環境に与える影響を考慮し、経済的・倫理的な視点から考えることができる。 2 海・船・物流等に係る知識・技術を身に付け、海陸の複合領域で活躍できる海洋交通システム技術者 (1) 商船学分野における諸現象の仕組みを数学的・物理的に理解できる。 (2) 船舶運航に関する航海学、運用、主機関並びに補助機関に関する分野について論理的に説明できる。 (3) 船舶とその運航に関する総合的な分野の実験・実習を通して、理論的に考察し、活用することができる。

3 自然に優しく、人の営みを支える海事関連システムを設計・開発できる海洋交通システム技術者 (1) 日本語・外国語により書かれた文献を理解し、文章や口頭発表により表現することができる。 (2) 個人又はグループで計画的にプロジェクトを進め、創造的なシステムを実現することができる。 (3) 新しい海事に関するシステムの概念を創生し、表現することができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.oshima-k.ac.jp/kyouiku/#anker-04)
(概要) 本校専攻科では、ディプロマポリシーにて掲げた能力を身に付けるため、次のような編成方針に基づいた教育を実施する。 (海洋交通システム学専攻) 1 国際的な視野と倫理観に基づく価値判断ができるように (1) 文化や歴史を踏まえ国際社会で生じる様々な現象について総合的に把握することができるように人文科学・社会科学系科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。 (2) 社会、福祉や環境に与える影響を考慮し、経済的・倫理的な視点から考えることができるように技術者倫理や社会科学系科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。 2 海・船・物流等に係る知識・技術を身に付け、海陸の複合領域で活躍できるように (1) 商船学分野における諸現象の仕組みを理解するために、数学及び物理に関する高度な自然科学系科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。 (2) 船舶運航に関する航海学、運用、主機関並びに補助機関に関する分野の専門科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。 (3) 船舶とその運航に関する総合的な分野の理論的な考察をする能力、技術を活用する能力を身に付けるために、特別実験を設け、実験を主とした学修方法により展開する。 3 自然に優しく、人の営みを支える海事関連システムを設計・開発できるように (1-1) 外国語による文章理解能力を育成するために、実践的な英語科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。 (1-2) 論理的な文章を作成する能力及びプレゼンテーション能力を育成する観点から、特別研究を設け、学生と指導教員の双方向性を重視した総合的な学修方法により展開する。 (2) 個人又はグループで計画的にプロジェクトを進め、創造的なシステムを実現する能力を身に付けるために、特別演習と特別実験によるグループワーク系(プロジェクトベース)科目を設け、演習・実験を主とした学修方法により展開する。 (3) 新規課題へ自主的に取り組む姿勢、研究能力、問題解決能力及びプレゼンテーション能力を育成する観点から、特別研究を設け、学生と指導教員の双方向性を重視した総合的な学修方法により展開する。 成績評価方法に関する方針 これらの科目に対する単位取得の認定は、各科目のシラバスに基づき、以下の方法で行う。 1. 授業科目の評価は、科目ごとの試験の成績及び出席状況並びに平常の学習状況(演習・レポート等)を総合して行うものとする。 2. 実技・実験・実習・演習などの実践的科目においては、課題への取り組み状況、レポート、発表などを総合的に勘案し、到達目標に対する到達度を評価する。 3. 特別研究においては、研究成果をまとめた論文、研究発表、取り組み姿勢などを総合的に勘案し、到達目標に対する到達度を評価する。 成績の評価及び単位認定基準 成績の評価は、優、良、可及び不可の評語をもってし、次の評点区分による。 優 80 点以上 良 66 点以上 80 点未満 可 60 点以上 66 点未満 不可 60 点未満
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.oshima-k.ac.jp/exam/senkouka/#section2)

(概要) 1. 商船学もしくは工学の基本的な知識を習得している人 2. 基礎学力をさらに深め、実践力を有するデザイン能力を身につけたい人 3. 研究・開発能力を身につけ、自主的、継続的に努力できる人 4. 技術者倫理を尊重し、グローバルな視野を有する専門家として社会に貢献したい人
学部等名 電子・情報システム工学専攻
教育研究上の目的 (公表方法：https://www.oshima-k.ac.jp/kyouiku/#anker-02)
(概要) 1 豊かな教養と国際感覚を身につけた、視野の広い技術者を養成する 2 協同の精神と責任感を培い、集中力・耐久力を養い、指導者として必要な能力を育成する 3 探究心を養い、身体を鍛え、先人の遺産を学び、新技術を創造できる能力を育成する
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.oshima-k.ac.jp/kyouiku/#anker-03)
(概要) 本校専攻科では、教育上の目的(学則第31条の2)に掲げる人材育成のために次のような具体的な能力と素養を定め、これらを身に付けかつ所定の単位を修得した学生に修了を認定する。 (電子・情報システム工学専攻) 1 国際的な視野と倫理観に基づく価値判断ができる電子情報システム技術者 (1) 文化や歴史を踏まえ国際社会で生じる様々な現象について総合的に把握することができる。 (2) 社会、福祉や環境に与える影響を考慮し、経済的・倫理的な視点から考えることができる。 2 メカトロニクス・ソフトウェア・ハードウェア・ネットワークのアーキテクチャ技術を身に付け、高度な情報化社会に貢献できる電子情報システム技術者 (1) 工学分野における諸現象のしくみを数学的・物理的に理解できる。 (2) 電気電子分野、機械分野及び情報通信分野について論理的に説明できる。 (3) 電気電子分野、機械分野及び情報通信分野の実験・演習を通して、工学的に考察し、活用することができる。 3 メカトロニクス、知能システムを設計・構築できる電子情報システム技術者 (1) 日本語・外国語により書かれた文献を理解し、文章や口頭発表により表現することができる。 (2) 個人又はグループで計画的にプロジェクトを進め、創造的なシステムを実現することができる。 (3) 新しいメカトロニクス、知能システムの概念を創生し、表現することができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.oshima-k.ac.jp/kyouiku/#anker-04)
(概要) 本校専攻科では、ディプロマポリシーにて掲げた能力を身に付けるため、次のような編成方針に基づいた教育を実施する。 (電子・情報システム工学専攻) 1 国際的な視野と倫理観に基づく価値判断ができるように (1) 文化や歴史を踏まえ国際社会で生じる様々な現象について総合的に把握できるように人文科学・社会科学系科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。 (2) 社会、福祉や環境に与える影響を考慮し、経済的・倫理的な視点から考えることができるように技術者倫理や社会科学系科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。

2 メカトロニクス・ソフトウェア・ハードウェア・ネットワークのアーキテクチャ技術を身に付け、高度な情報化社会に貢献できるように

(1)工学分野における諸現象のしくみを理解するために、数学及び物理に関する高度な自然科学系科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。

(2)工学分野における専門知識を論理的に説明する能力を育成するために、電気電子分野、機械分野及び情報通信分野の専門科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。

(3)電気電子分野、機械分野及び情報通信分野の工学的な考察をする能力、技術を活用する能力を身に付けるために、特別実験を設け、実験を主とした学修方法により展開する。

3 メカトロニクス、知能システムを設計・構築できるように

(1-1)外国語による文章理解能力を育成するために、実践的な英語科目を設け、講義や演習を主とした学修方法により展開する。

(1-2)論理的な文章を作成する能力及びプレゼンテーション能力を育成する観点から、特別研究を設け、学生と指導教員の双方向性を重視した総合的な学修方法により展開する。

(2)個人又はグループで計画的にプロジェクトを進め、創造的なシステムを実現する能力を身に付けるために、創造工学演習と特別実験によるグループワーク系(プロジェクトベース)科目を設け、演習・実験を主とした学修方法により展開する。

(3)新規課題へ自主的に取り組む姿勢、研究能力、問題解決能力及びプレゼンテーション能力を育成する観点から、特別研究を設け、学生と指導教員の双方向性を重視した総合的な学修方法により展開する。

成績評価方法に関する方針

これらの科目に対する単位取得の認定は、各科目のシラバスに基づき、以下の方法で行う。

1. 授業科目の評価は、科目ごとの試験の成績及び出席状況並びに平常の学習状況(演習・レポート等)を総合して行うものとする。

2. 実技・実験・実習・演習などの実践的科目においては、課題への取り組み状況、レポート、発表などを総合的に勘案し、到達目標に対する到達度を評価する。

3. 特別研究においては、研究成果をまとめた論文、研究発表、取り組み姿勢などを総合的に勘案し、到達目標に対する到達度を評価する。

成績の評価及び単位認定基準

成績の評価は、優、良、可及び不可の評語をもってし、次の評点区分による。

優 80 点以上 良 66 点以上 80 点未満 可 60 点以上 66 点未満 不可 60 点未満

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.oshima-k.ac.jp/exam/senkouka/#section2>)

(概要)

1. 商船学もしくは工学の基本的な知識を習得している人
2. 基礎学力をさらに深め、実践力を有するデザイン能力を身につけたい人
3. 研究・開発能力を身につけ、自主的、継続的に努力できる人
4. 技術者倫理を尊重し、グローバルな視野を有する専門家として社会に貢献したい人

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.oshima-k.ac.jp/kyouiku/#anker-05>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	5 人	—					5 人
商船学科	—	3 人	5 人	1 人	3 人	0 人	12 人
電子機械工学科	—	4 人	2 人	0 人	1 人	0 人	7 人
情報工学科	—	2 人	3 人	1 人	2 人	0 人	8 人
一般科目	—	6 人	1 人	1 人	7 人	0 人	15 人
練習船大島丸	—	0 人	2 人	0 人	2 人	0 人	4 人
海洋交通システム学専攻	—	14 人	9 人	2 人	6 人	0 人	31 人
電子・情報システム工学専攻	—	16 人	7 人	2 人	1 人	0 人	26 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0 人		14 人					14 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： 本校 HP (https://www.oshima-k.ac.jp/)					
c. F D （ファカルティ・ディベロップメント） の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関する事

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
商船学科	40人	42人	105%	240人	230人	95.8%	若干名	0人
電子機械工学科	40人	43人	107.5%	200人	209人	104.5%	若干名	2人
情報工学科	40人	49人	122.5%	200人	212人	106%	若干名	1人
海洋交通システム学専攻	4人	3人	75%	8人	5人	62.5%	0人	0人
電子・情報システム工学専攻	8人	10人	125%	16人	24人	150%	0人	0人
合計	132人	147人	111.4%	664人	680人	102.4%	若干名又は 0人	3人
(備考) 編入学者数には、留学生及び転入学生を含める。								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
商船学科	35 人 (100%)	4 人 (11.4%)	31 人 (88.6%)	0 人 (0%)
電子機械工学科	35 人 (100%)	3 人 (8.6%)	32 人 (91.4%)	0 人 (0%)
情報工学科	38 人 (100%)	9 人 (23.7%)	29 人 (76.3%)	0 人 (0%)
海洋交通システム学専攻	2 人 (100%)	0 人 (0%)	2 人 (100%)	0 人 (0%)
電子・情報システム学専攻	12 人 (100%)	7 人 (58.3%)	5 人 (41.7%)	0 人 (0%)
合計	122 人 (100%)	23 人 (18.9%)	99 人 (81.1%)	0 人 (0%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
シラバス作成を前年度 12 月から授業担当教員に依頼し、1 月末をめどに提出させている。提出されたシラバスは、教務委員会で確認の上、Web シラバスで公開している。
学生には、ホームページ上でシラバスを確認させるとともに、1 回目の授業時に該当科目のシラバスを配布することによって、授業の方法および内容、到達目標、成績評価等について周知している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) 「大島商船高等専門学校学業成績の評価並びに進級及び卒業に関する規則」により、卒業認定会議を開催の上、校長が卒業・修了を認定している。 (1)学則に定める各学年の必修科目及び修得最低単位数に相応する選択科目を履修すること。 (2)修得累計単位数が 167 単位以上（そのうち、一般科目 75 単位以上、専門科目 82 単位以上）であること。ただし、商船学科については、修得累計単位数が 147 単位以上（そのうち、一般科目 75 単位以上、専門科目 62 単位以上）であること。 (3)卒業研究を修得していること。 (4)商船学科については、大型練習船実習課程を修了していること。 (5)大型練習船実習課程のうち卒業年次の 6 月については、疾病等やむを得ない事由により履修が困難であると校長が認める場合は、その全部又は一部について、校長が別に定める措置とすることができる。 (専攻科)学則及び「大島商船高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規則」により、修了を認定している。				
学部名	学科名	卒業又は修了に必要な単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
	商船学科	147 単位	有・無	単位
	電子機械工学科	167 単位	有・無	単位
	情報工学科	167 単位	有・無	単位
	海洋交通システム 学専攻	62 単位	有・無	単位
	電子・情報システム 工学専攻	62 単位	有・無	単位
G P Aの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<https://www.oshima-k.ac.jp/campus/facility/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
	商船学科	234,600 円	84,600 円	約 51,150 円～ 61,950 円	スポーツ振興センター共済掛金 1,550 円 教科書代 約 40,000 円 学生会費 9,600 円 （以下は寮生のみ） 寄宿料 8,400 円～9,600 円 寮生会費 1,200 円
	電子機械 工学科				
	情報工学 科				
	海洋交通 システム 学専攻				
	電子・情 報システム工学専 攻				

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
（概要） 主な奨学金として、日本学生支援機構をはじめ、海技教育財団、山口県ひとづくり財団、全日本海員組合・国際船員労務協会などがある。また、特別な事情により入学金や授業料の納付が著しく困難な場合は、選考のうえ全額または半額の納入免除を受けることができる。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
（概要） 各学生の適性を生かした進路選択ができるよう、1～2年生では、職業と適性についての学習や資格試験の取得の推奨を、3年生以上では、職業適性検査の模擬試験や本校卒業生らによる講演会、企業訪問、インターンシップ事前研修、メイクマナー講座、就職・進学合同説明会、就職進学活動における個別相談を実施している。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
（概要） ・保健室にて健康診断、健康相談、保健指導、救急処置などの保健管理を行っている。 ・学生相談室にて、各種アンケートを実施し、メンタル不調の早期発見や、SC・SSW 等専門職と連携してカウンセリングや支援を行っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法： https://www.oshima-k.ac.jp/kyouiku/

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格 A 4 とする。